

新型コロナ対策 A～Z の最新知識情報と至急実施すべき BCM アクション (セリングビジョンまとめ)

2020 年 3 月 5 日
セリングビジョン株式会社

最近の新型コロナウイルス対策について、CNN、Wall Street Journal などでもよくニュース報道がなされており、各事業者の BCM (事業継続経営) のために A～Z で要約しました。

知らなければならない科学的データを踏まえ、至急実施すべき企業等の活動の参考にしていただければ幸いです。

A aerosol

エアロゾル

空気の中で長期間生き続けるウイルスではないが、ウイルスが部屋の狭い空間に噴霧状で短期間で漂い生き続ける。横浜の大型クルーズ船での空調などのダクトも外気と室内の空気が循環しているためウイルスが循環して感染連鎖したのではないかとの可能性について専門家も否定できない。

B B C P (B C M)

Business Continuity Planning/Management

バイオハザードへの危機管理と事業継続経営計画。

人類史は数年に一回の新型ウイルスとの闘いに遭遇している。(今世紀でも 2003 年 SARS、2009 年 HINI、2013 年 MERS、2014 年 エボラ出血熱) 今回の手ごわい新型コロナウイルス発生 (outbreak) については、特にパンデミックにも備えて、事前に感染対策の社内研修を実施し「勤務者のマスク着用」「時差出勤の実施」「入社前の自宅での体温測定の実施」「社内の消毒液、うがい液、アルコールティッシュ常備と定期的な換気の実施」などを実施。従業員が感染したら感染拡大防止策として「会社の全館消毒の実施」「濃厚接触者の自宅待機」「関係先への感染者発生の実告の通知、来社を控えて頂くようお願いの要請」「関係先への訪問の自粛」などの対応が必要。

C cluster mingled

感染しやすい集団、人混み。スポーツジム、カラオケボックス、ライブハウス。コンサート会場、展示場、宗教会合などの、狭く換気が難しい場所は集団感染の怖れが実証的にある。中国の専門家分析では、新型コロナウイルスは 2 種類、L (70%) と S (30%) があり、L 型は武漢での大集団感染を招くような感染力が強いため、要注意とのこ

と。S型は旧タイプでコウモリ由来との分析。（3月5日時点。日本でL型は少ないとの専門家の推論）

D diagnosis

診断。新型コロナウイルスのパンデミックを防ぐためには診断に有効なPCR（**Polymerase Chain Reaction** <ポリメラーゼ連鎖反応>）の検体検査キットでのデータ確認により、感染者を隔離することが制圧の基礎条件。遺伝子の配列をチェックし陽性、陰性を調査。PCR検査は保険適用になった。（3月政府発表）また、治療薬、ワクチンの早期開発が望まれる。

E epidemic diseases

流行性の伝染病。今回の新型コロナウイルスや2002年のSARS、2013年のMERSやエボラ出血など新型ウイルス等による伝染病もあれば、季節性のインフルエンザなどの治療薬、ワクチンの開発済みのウイルスによる伝染病もある。

F facemask

感染者のせき、飛沫などから、守る必要対策品。とくに日常的に感染者に接する病院や、介護職員にマスクの着用が必要。

ウイルスは0.1 μm ~5 μm レベルのため、0.1 μm のウイルスを99%遮断できるN-95などのエビデンスのあるマスクが望ましいが、マスク不足の中、花粉対策マスク（5 μm 程度）やガーゼマスクでも、やらないよりは、やったほうが安全。薄いマスクは、重ねて装着しなければならない。

G globalization

グローバル化。旅行、出張などで感染は全世界に拡大。各国とも新型コロナウイルスの汚染大国には渡航制限を実施あるいは早期検討。

H hand touch

手指の接触感染を防ぐため石けん、アルコール消毒液、強アルカリ性テープ（しっくい）で

よく消毒したり、接触する場所に貼る。とくに、手指からの感染が多いため、こまめに何回も消毒することが望ましい。また安易なハグや握手も制限しなければならない。

I isolation

隔離。お客様や関係者と濃厚接触避けることが感染防止に不可欠である。このため、感染者や感染の可能性のある濃厚接触者には、感染から発病まで二週間程度の潜伏措置があると仮定して、隔離を実施する。感染後に免疫遮断（immunity interception）ができ、体内に免疫遮断効果ができ、短期間に二度の感染はしないため隔離から解放される。

J joint research or cooperation or mission

共同の研究や協調、使命。全人類、世界にとって共通の「ウイルス戦争」であり、各国リーダーや研究者等の共同での治療薬、ワクチン等の研究や、各国の生活・企業活動等の自粛などの協調行動をとることが必要。

また、世界的拡大の制圧（containment）にはマスク、防護服（gown）、ゴーグル（goggle）などの新興国への寄付なども求められる。

K knowledgeable

ウイルスや感染症についての知識情報を広く国民などに知らせる。デマに惑わされないように、またパニックにならないように科学データに基づく行動を行う。

L level 4（BSL4）。

BSL 4（Bio Safety Level 4）の laboratory 実験室、研究室は、日本では国立感染症研究所 村山庁舎にある。WHOが定めるウイルスや細菌などの病原体を扱い感染症対策で実験する最高の施設基準。

実験者は自らが感染しないよう、空気が中に入り込まない仕組みのスーツを着て、実験後には薬液のシャワーを浴びる。

実験室の排気は2重の高性能フィルターを通し、排水は加熱と薬液で滅菌。

災害に備え、施設は免震構造を採用し、非常用電源も備えるという。

施設に入る研究者は人物審査や訓練を経た人に限られ手荷物検査やボディチェックを受け、実験室まで複数の認証システムを通らなければならないという。

M medicine

治療薬。新型コロナウイルスには治療薬が開発されていないため、特効薬は存在しない。このため、世界的な研究開発が必要。

N National Institute of Infectious Diseases, NIID

日本の国立感染症研究所。日本の感染症調査や疫学的調査、対策を練る専門家機関。政府の感染症対策の助言、提言も行う。

O Olympics

東京オリンピック、パラリンピックの開催か延期か中止か、国際オリンピック委員会や世界各国のリーダーやアスリートが関心を示す。海外の方々や参加するアスリート、観客を安全に守ることができるか。IOC＝国際オリンピック委員会の理事会は、新型コロナウイルスの感染の拡大を受けて特別作業チームを設けて対応していることを明らかにした。IOC＝国際オリンピック委員会は3月3日、本部のあるスイスのローザンヌで定例の理事会を開き、

この中で、バッハ会長は、「2月中旬にIOCと大会組織委員会、東京都、日本政府、それにWHO＝世界保健機関が合同で特別作業チームを結成し、新型コロナウイルスの対応に当たっていることや理事会として東京オリンピックの成功に向け全面的に関わっていく」と緊急声明を出した。

P Pandemic

パンデミック、世界的流行。数国にとどまらず、世界的に感染者が増え続け、感染のトレース（接触履歴など）が不明な三次感染、四次感染、五次感染以上が連続して起きて、ウイルスを制圧できず、世界的に波及する現象。

Q quarantine

検疫。ウイルスを持ち運ぶ感染した人々を水際で入国させない。しかし、横浜クルーズ船では、船内に検疫で入った検疫官も感染しており、新たな対策が必須。

R remote telework

パソコンやスマホ使ったテレビ会議システムでテレワーク。ただし、現場で顧客との商談をする営業会社には不向き。また展示やイベントなどのリアルなビジネスには限界がある。

S staggered work

時差出勤。テレワークとともに、公共機関（JR、私鉄、バス等）の通勤混雑を避ける感染防止対策として奨励される。

T transmission

ウイルス伝染。ウイルスが動物から動物、動物からヒトへ、人から人へ感染し続ける連鎖。

U ultra-legal measures (extra-legal)

未曾有の危機対策に 政府主導の 超法規的措置。感染拡大が続く北海道や、発生していない県を含む3月上旬から春休みまでの全国の小中高の一斉休校措置を要請実施。リーダーの迅速な英断と行動と結果責任を負う覚悟が試される。

V vaccination

ワクチン。治療薬とともに開発されていない。1年はかかる見込み。

W WHO (World Health Organization)

世界保健機関。「世界全体の感染症情報や対策を講じる総本山。新型コロナウイルスの特徴について、「SARS」や「MERS」などの新型ウイルスや、季節性インフルエンザとも異なる特徴がある。感染度は高いが、インフルエンザよりも伝染しにくい一方で、感染した場合はインフルエンザよりも症状は重く、世界的な致死率は3.4%で、1%に満たないインフルエンザよりもはるかに高い。」(3/3テドロス事務局長)

X x short of y

xはyが無いと効き目がない。

x「ウイルス感染治療」 y「治療薬、ワクチン」

x「飛沫感染防止」 Y「マスク」

x「ウイルス制圧」 Y「国民一人一人から世界各国リーダーの防止対策行動」

Y younger

若い世代は感染しにくい。自覚症状のない無症状のため、感染した若者は知らぬ間に家族など他者に感染しやすい。高齢者や基礎疾患ある患者に感染させると重症化する。

Z zone

地帯。感染で緊急事態宣言の国々やエリア、市町村。重症化する世代や病歴で感染ゾーンをチェック。今後は、感染症対策の未整備な地帯のアフリカ、中南米、島嶼国などの流行には要注意とWHOは訴える。